

# 負動産×ミューラルアートの新プロジェクト 「リンク・アート」を始動しました

JAPAN AX PROJECT株式会社と業務提携し  
ミューラルアートのチカラで負動産に新たな価値を創造



「世のために。人のために。」を理念に掲げ、不動産の可能性を追求し社会問題を解決してきたマークス不動産（本社：東京都中央区、代表取締役：花原浩二、以下当社）は、ミューラル（壁画）アートを多角的に展開しているJAPAN AX PROJECT株式会社（本社：北海道札幌市、代表取締役社長：山田 真史）と業務提携し、事故物件や再建築不可物件などの不動産、いわゆる「負動産」にアートを施し、価値をプラスして市場に流通させる、新ブランド「リンク・アート-Link Art」を本日リリースしたことをお知らせいたします。

## ■今回の業務提携について

マークス不動産の主軸事業の一つ「成仏不動産」では、事故物件の価値を見出し、正しく市場に流通させてきました。事故物件を扱う中で、世の中の事故物件への捉え方が変化し、今後は新しい価値観を持った人が「賢い選択肢」として選ぶ物件になっていくと考えています。

その中で、JAPAN AX PROJECT社が、「アートは、人生を豊かにする」というビジョンのもとに、ミューラル（壁画）アートを住宅に取り入れる活動をしていることを知り、共感し業務提携する運びとなりました。

## ■負動産×アートブランド「リンク・アート」について

リンク・アートは様々な課題をもった物件に対してミューラル（壁画）アートを取り入れ新たな価値を生み出し、物件の正しい価格での流通を加速させるブランドとなります。

第一弾は事故物件の屋内壁面にミューラルを制作し、この世にひとつだけの住宅を提供します。

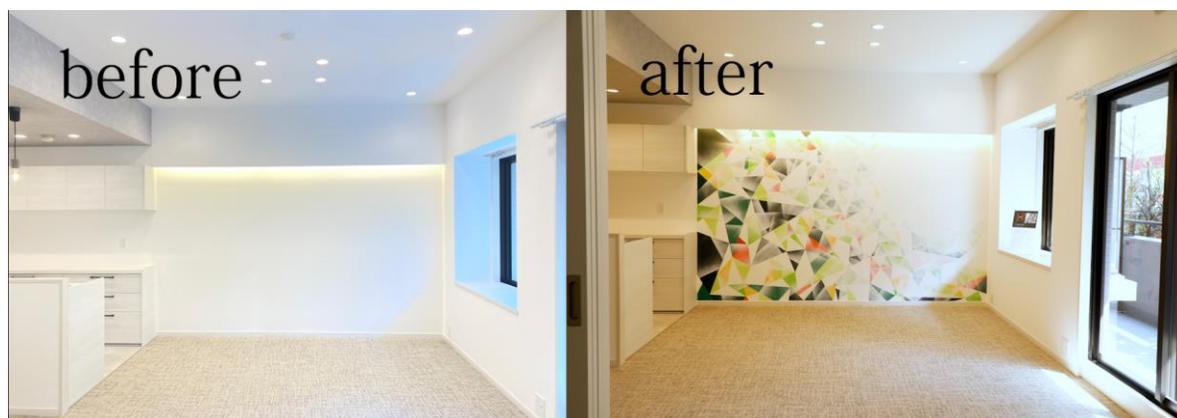
## 「リンク」に込めた2つの想い

リンク・アートの「リンク」には2つの意味が込められています。

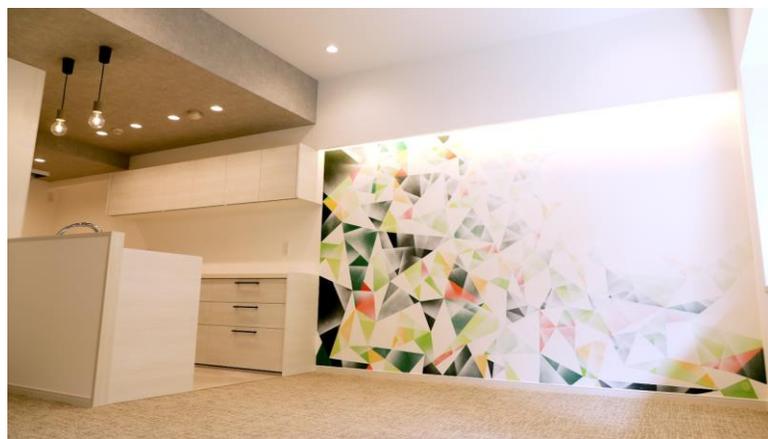
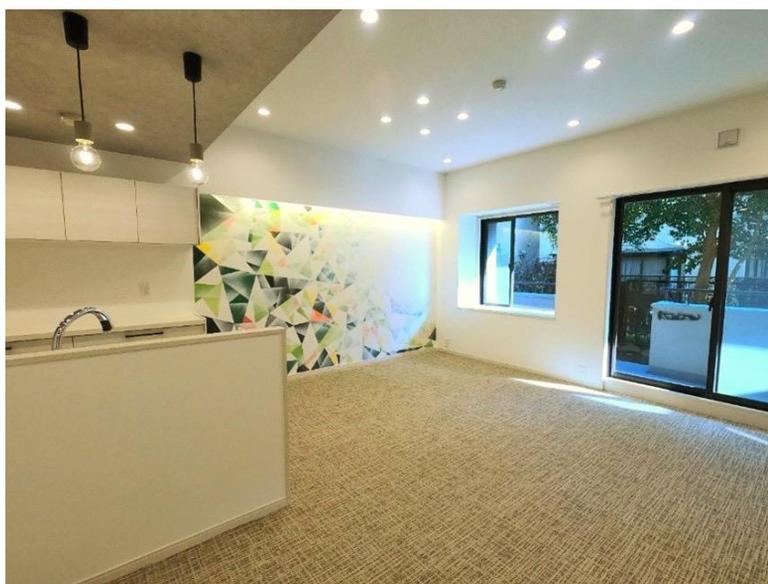
1つ目は、「リンク=つなぐ」という意味です。マークスとアートをつないで、課題のある物件の新しい価値を創造します。

2つ目は、「リンク=環（わ）」。課題のある物件がアートの力で次に住まう人のもとへと渡り、円を描くように循環してほしいとの想いを込めました。

## ■リンク・アート第一弾の制作について



第一弾は、埼玉県にある物件にミューラル（壁画）を施工しました。今回のアートは、右上を光源とし、木漏れ日のような明るくひらかれたイメージを表現しています。生命力を感じられる彩りを配置し、昼間の日差しが入る時は明るいイメージ、夜のライトアップされた時はムード溢れる空間へと変化します。また、直接壁面に描いていることで立体感と暖かみを感じられる部屋になっています。



## ■アーティストについて

アーティストは長野県を拠点とし、全国で活動している「-尾頭-山口佳祐」氏。日本特有の思想や感覚、現代の発想や画法を追求しながら万物に秘められた“何か”を追求しながら筆を走らせ続けている画家です。

### 【アーティストコメント】

#### OZ-尾頭-山口佳祐



「今回描いた三角形は、角のある印象ですけど、それが集まることによって生まれる曲線や形、そういったものを大切にして構成しています。さらにその上に、白をのせることで見えない線（ハレーション）を作り、見た人それぞれの解釈に繋がればいいなと思い制作いたしました。」

OZ-尾頭-山口佳祐オフィシャルWebサイト

<https://oz-te.com>

アートディレクション：WASABI／株式会社NOMAL

<https://wasabi-artdesign.com/>

## ■今後の取組みについて

当社は、事故物件に限らず、空き家や再建築不可物件などの価値提供にも取り組んでまいりました。

JAPAN AX PROJECT社は、地方の空き家問題や人口減少課題に対し、ミューラルを通じて人が集う場所づくりや新しい情報発信の方法などにチャレンジをしています。

今後も社会課題に対してディスカッションを繰り返し、負動産とミューラルアートの可能性を追求して、世の中の課題を共に解決してまいります。

## **株式会社マークス不動産 代表取締役社長 花原 浩二**

私はもともと絵画が好きで、弊社オフィスや自宅にも絵画を飾っています。絵画の持つ力強さや癒しの力などを感じ自分自身がポジティブな気持ちになっていることに気づきました。

そこで考えたのが、事故物件に本物のアートを描くことで、事故物件の負のイメージをプラスに変えられないかということでした。

構想自体は3年ほど前から考えていましたが、今回たまたまのご縁で山田社長とお話する機会があり、そこから一気に話が進む形になりました。

事故物件を販売することが目的ではなく、不動産が持つ本来の価値を甦らせること、事故物件を所有して困っている世の中の人たちに希望を与えること、そして素晴らしいアーティストの皆様にもアートの持つ力を披露する場を提供したいという思いを持っています。

完成した部屋を拝見し感動しました。デザインの問題よりも、心の問題だと思います。このひと部屋の為に心を込めて描いていただいたこと、未来への力強さが感じ取れました。

今後はリンク・アートプロジェクトとして全国に展開して、事故物件を保有して困っていらっしゃる方に、勇気と希望を与えられるプロジェクトにしていきたいと思っています。

## **JAPAN AX PROJECT株式会社 代表取締役社長 山田真史**

世間一般と同様に私も事故物件についてネガティブな印象を持っていましたが、花原社長とお話をさせていただき、印象のみで勝手に嫌われている物件をなんとか出来ればと考えるようになりました。

今回の業務提携及び新ブランドの提供において、花原社長や社員の方々の事故物件に対する強い思いが後押ししたことは間違いありません。それぞれが思いをもって事業を進めていることに感銘を受け、是非マークス不動産様と一緒にサービスを作りたいと感じました。

ミューラルアートと不動産は切っても切れない関係にあり、その不動産業界にチャレンジしているマークス不動産社とは今後も様々な課題に対し一緒にチャレンジしてまいります。

まずは、今回の新サービスをきっかけに事故物件やそれ以外の課題ある物件の価値創造につながると嬉しいですね。